

**介護保険事業計画に記載した「自立支援、介護予防又は重度化防止に関する取組と目標」
(令和6年度)報告様式**

1 在宅医療・介護の支援

【目標を設定するに至った現状と課題】

在宅医療と介護連携の推進においては、システム等の構築も重要であるが、それ以前に継続的な「顔の見える関係性づくり」が重要であり、当町では多くの専門職からもそのような声があがっている。そのため、医療・福祉の専門職同士が顔の見える関係性づくりや共通理解、スキルアップを図る必要がある。

【設定した主な取組及び目標・実績】 ※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】医療福祉多職種連携研修会を開催し、関係作りや共通理解を図る。

【目標】R6年度 2回開催(延べ参加者:100名)

【実績】R6年度 2回開催(参加者:49名)

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

医療・介護福祉ネットワークの構築、在宅医療と介護連携の推進

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価 **B**

評価理由:関係機関と円滑に調整を行い、目標の通り2回実施できたためBとした。

今後の方針:関係機関との円滑な調整を図り、R7年度においても年2回開催を計画している。

2 地域包括ケアシステムの構築

【目標を設定するに至った現状と課題】

地域ケア会議を通して地域課題を共有し、資源開発や政策形成につなげていくことが求められているが、本町においては、ケアマネジャーが人材不足のため、各ケアマネジャーが業務負担が大きく、担当件数の増加に比例し困難事例を複数例抱える状況となっている。そのため、困難となっている課題や要因を分析し、課題解決のために検討する機会を持つことが必要である。

【設定した主な取組及び目標・実績】 ※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】課題解決型地域ケア会議の開催

【目標】R6年度 2回

【実績】R6年度 1回

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

【アウトカム】

課題解決型地域ケア会議を開催し、ケアマネジャーが直面する支援困難な状況を共有し、様々な立場から解決策を検討し、役割分担を決めることができた。

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価 **B**

評価理由:R6年度の目標が未達成であり、評価をBとした。

今後の方針:今後においても、検討した事例の報告を行いながら、継続して課題解決策の検討を進めていく。

3 認知症対策の強化

【目標を設定するに至った現状と課題】

高齢化に伴い、認知症高齢者は増加していくことが見込まれており、認知症高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、本人の状態に応じたサービスを提供していく必要があるが、当町では認知症についての住民理解が十分とはいえず、認知症サポーターの養成が進んでいない。

【設定した主な取組及び目標・実績】 ※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】認知症サポーター養成講座を実施しサポーター養成促進する。

【目標】

- ・認知症サポーター養成講座 R6度 3回開催
- ・サポーター養成者数 R6度 90人

【実績】

- ・認知症サポーター養成講座 R6度 4回開催
- ・サポーター養成者数 R6度 100人

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

【今後期待される効果】認知症理解の促進(効果測定方法は現在検討中)及び民間主導での認知症施策の推進。

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価 B

評価理由:養成講座を実施し目標を達成したためBとした。

今後の方針:サポーター数を増やすことで、民間主導のカフェ活動等を開催できるように支援したい。

4 高齢者の能力活用と就労支援

【目標を設定するに至った現状と課題】

高齢者がこれまでに得た技能や経験を活かしたボランティア活動、就労的活動を通じて、地域や社会を構成する一員として社会貢献できる場の提供が必要である。

【設定した主な取組及び目標・実績】 ※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】シルバー人材センターの金銭的支援以外にシルバー人材センター会員増の取組みに協力し、令和6年10月1日に役場庁舎内での会員募集のブースの設置や会員募集のチラシの各戸配布を行った。

【目標】シルバー人材センター会員数160人

【実績】シルバー人材センター会員数157人

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

シルバー人材センターの支援により、高齢者一人一人が活躍できる社会の構築

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価 B

評価理由:おおむね目標に到達しており、取組内容が実績の向上につながっているため。

今後の方針:高齢者にとって働くことは、健康と生きがいを持ち、閉じこもり防止や孤独感の解消として有効であるため、今後もシルバー人材センターの活性化に向けて、事業拡大を支援していきます。

5 人生百年時代を見据えた健康づくり

【目標を設定するに至った現状と課題】

介護予防ボランティアの育成・支援を行うことにより、通いの場が参加者及びボランティア自身の閉じこもり防止や生きがいづくりとなっている。しかし、ボランティアが減少傾向であり、担い手側の確保が困難である。

【設定した主な取組及び目標・実績】 ※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】

- ・介護予防のための通いの場であるシルバーリハビリ体操教室への参加促進と体操指導士の活動支援
- ・認知症予防体操（フリフリグッパ体操）を中心とした地区運動集会への参加促進とボランティアの活動支援

【目標】

- ・シルバーリハビリ体操参加者数（R6:15,500人）
- ・フリフリグッパ体操参加者数（R6:2,000人）

【実績】

- ・シルバーリハビリ体操参加者数（年間延べ参加人数 R6:10,330人）
- ・フリフリグッパ体操参加者数（年間延べ参加人数 R6:1,657人）

【取組により得られた効果（アウトカム）または今後期待される効果】

- ・要介護認定率が低率で推移。

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価（S・A・B・C・D）

自己評価 C

評価理由：新型コロナウイルス感染症の影響で、参加者が減少し、現在は少しずつ増加しているものの、シルバーリハビリ体操参加者・フリフリグッパ体操参加者の両方が目標値には達成していないため、C評価とした。令和6年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で縮小していた内容を元にもどし、ボランティアの方と協力して活動の充実を図った。また、体操を普及するボランティア（シルバーリハビリ体操指導士）の養成を行った。

今後の方針：認知症予防対策として、参加者がさらに健康的な生活が送れるよう、ボランティアの方と協力して継続的な運営を行う。

6 その他

【目標を設定するに至った現状と課題】

【設定した主な取組及び目標・実績】 ※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】

【目標】

【実績】

【取組により得られた効果（アウトカム）または今後期待される効果】

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価（S・A・B・C・D）

自己評価

評価理由：

今後の方針：

S

A 目標を上回っている（数値目標がある場合、達成率101%以上）

B 目標を達成している（同100～80%）

C 目標を概ね達成している（同79～60%）

D 目標を下回っており、努力が必要である（同59～30%）

目標を大幅に下回っており、改善を要する（同29%以下）